

秋高三三会では、年次総会の始めに同年生の動向を紹介する時間が設けられており、昨年は私の番となり、表題について紹介したところ、同窓会の広報委員より、「秋高同窓会だより」に載せたいとのこと、当日の話にその後の動向を加筆し、紹介させて頂くこととした。

私たちは資源・エネルギーを有効に利用し、大量生産・大量消費によって今日のようにな豊かな、便利で快適な生活を出来るようになったが、反面、二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガス(GHG)が多量に排出され、地球温暖化対策が喫緊の課題となっている。

地球温暖化の影響は、氷河・氷床の融解、大気・陸海の温度上昇などに現れ、さらに、ハリケーン・台風の発生、多雨・旱魃の偏地的発生、自然破壊、生態系の変化、感染症の多発、食糧の収穫低下、熱中症の発生など経済成長や人類の安全保障を脅かすことが予測されていることは周知のことである。

これらの問題の対策としては、化石燃料使用量の削減とエネルギー資源を自然エネルギー

ポラリス *Polaris*

ギーに転換し、CO₂の排出を低減することが必要である。京都議定書では各国ごとに削減目標を定め、日本は基準(一九九〇)年対比で六%の削減を義務付けられたが、環境省の報告では達成はかなり厳しいようである。

我が国の部門別では、産業部門はGDPが二・四倍に増加したにも拘わらず二〇〇六年は、CO₂排出は五%削減し頑張っているが、国全体では一%、業務部門(商業、事業

地球温暖化

問題と

私達の対応



工藤 兼勝 (昭和33年卒)
(環境あきた県民フォーラム理事)

所、公共自治体、学校、病院など)は四一%、家庭部門も三〇%と増加しており、この両部門の削減が課題となる。CO₂は秋田県全体で約三二%、業務部門は六一%、家庭部門は三八%も増加し、全国が増加率を大幅に上回り下位に位置している。私たちが毎日生活している「家庭と勤務先」でもっと省エネに努めることが必要である。

GHG排出削減の方法とし

て、①技術開発によるエネルギー消費の低減、②行政等による法規制制定による抑制あるいは実施行為に対する助成、③国民の実行の三つが考えられる。①については、発電業界では石炭のガス化発電などの高効率発電技術開発、自動車業界ではハイブリッドや電気自動車・燃料電池車、家電業界では各種の省エネ家電製品などを開発している。②では、改正省エネ法や温対法などの法令遵守を強化し省エネ

を推進すると共に、エコカー・低燃費自動車、省エネ家電製品、省エネ住宅の新・改築へのエコポイントの付与による助成などにより、③の国民の省エネ志向を促しているのが現状である。秋田県でも昨年以來、国の助成に加え上述の助成をしているが予想を上回る関心が示されている。我が家では二〇〇〇年を基点として環境家計簿をつけているが、二〇〇九年は、三

四%のCO₂の削減ができた。実施した内容と言え、定年退職時に住宅に断熱材を四方に廻らし、戸・窓を二重サッシにして省エネ化する、白熱電球を全て電球型蛍光灯に切替、スイッチ付きコンセント(エコタップ)を各室に備え待機電力を削減し、寿命が来た電化製品を省エネ型製品に、自動車を低燃費車に入れ替え、あとは不要なエネルギーを消費しないよう家族で配慮するなどである。太陽光発電の導入計画は、築五十年の古家では耐荷重が持たないとのことで断念したが、風力発電に参画し自家の消費電力程度は自然エネルギーで創出したいと考えている。

CO₂の削減を推進するに当たり、効果的なものとして「環境家計簿」の継続的な記録がある。過去のエネルギー消費量の実績を基に、削減目標を立て達成に向けて家族全員で努力するものであり、秋田県では、自動車用燃料や暖房用エネルギーと電力使用量を削減することが効果的である。「環境家計簿」は秋田県生活環境部が「事業者用」「家庭用」の二種類を準備しており、これを活用し温暖化対策に取り組んで戴きたいと願っている。

天上天下

今年、ロマン派を代表する作曲家でピアニストでもある「ピアノの詩人」ショパンの生誕二百年ということ、故国のポーランドを初め、世界各国で記念の催しが企画され実行に移されているようである。▼一方、今年はまだ、「羅生門」でのベネチア国際映画祭最高賞受賞を皮切りに数多くの国際映画賞を獲得して「世界のクロサワ」と讃えられた黒澤明の生誕百年にも当たっている。▼ショパンと黒澤明では活躍した年代が百年も違うし、地理的にも西洋と東洋という具合に離れているので、両者の間には何の接点もないように思い込んでいたらそうでもなかった。黒澤が残した三十本の作品の二十八番目にあたる「夢」のなかにショパンの名曲「雨だれ」が使用されているのである。弾いているのはピアニストの遠藤郁子だが、なかなか黒澤のOKが出ず、わずか四十数秒の収録のために遠藤は六時間、百回も弾き直したという。▼黒澤映画の迫力は徹底したリアリズムから生まれてきていると言われるが、必要な部分にはちゃんとロマンの要素も入っているのである。